

## 医心 伝心

# 富山県医師会と富山大学地域医療 総合支援学講座の連携について

県医師会理事 長田 拓哉

この度、富山大学に地域医療総合支援学講座(峯村正実教授)が設立されました。富山県、県内各医療機関、ならびに富山大学附属病院が今後さらに連携・発展していくために、地域医療総合支援学講座の活動を応援していきたいと思ひます。

富山県では今後ますます人口の減少と高齢化が進むことが予測されており、人々の健康と安心を守る地域医療の重要性が議論されています。しかし、現場の医療機関では医師不足が大きな問題となっています。地域医療支援学講座が果たすべき課題は、地域医療機関における医師偏在の解消と地域医療を担う優秀な専門医の育成と考えられます。そのためには、大学附属病院、各医療機関、富山県医師会が相互に協力していくことが大切と思ひます。

### 1. 富山大学附属病院が果たすべき役割

医療資源＝優秀な専門医を増やすことを目的に、富山大学医師キャリアパス創造センターや附属病院卒後臨床研修センターが県内各医療機関と連携して、より多くの富山大学卒業生が初期臨床研修医・後期臨床研修医として富山県に残ってくれる魅力ある研修プログラム、並びに専門医養成プログラムの実施を進めていく必要があると思ひます。

### 2. 各医療機関の役割

病院間の人的連携を強化していただき、不足する医療資源を相互に補い活用する方法について、大学や医局の垣根を超えた協力体制が大切と思ひます。具体的には、各地域における急性期、亜急

性期病床の需要や医療資源の分布パターンの解析を行い、それらのビッグデータから得られる富山型地域医療シミュレーションモデルを構築することにより、富山県内の地域医療に関する課題を検証し、医師偏在問題の解決に向けて大学と地域病院が連携を深められる関係を構築することが大切と思ひます。

### 3. 富山県医師会の役割

富山県医師会では各懇談会を開催し、各地域医療機関の問題点や要望などを伺う意見交換を実施してきました。昨年は公的病院長と県医師会との懇談会(1月12日)、郡市医師会との懇談会(8月31日～9月27日)などが開催されています。これらの各懇談会で頂いた意見、要望等を「県政に対する要望書」にまとめ、馬瀬会長より知事に直接要望書を手渡しさせていただきました。さらに、富山県議や知事との意見交換会(自民党医療問題調査会、隆山会医師部会、県議会自民党政務調査会その他)、県厚生部と県医師会との懇談会(10月4日)など、富山県の地域医療の現状を改善させるべく積極的に活動を続けています。

以上、富山県内の病院で治療を受けていただく全ての患者さんが喜びを感じていただけるように、地域医療総合支援学講座を核として県内医療機関が共に win-win の関係を築いていける様、これからも富山県医師会の一員として一生懸命お手伝いをさせていただきたいと考えています。